



## ミサイルいらない 歌は闘いの力

石原つや子

○初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。——言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。

(新約聖書 ヨハネ伝 1章から)

○歌は怒りを鎮め、祈りとなる(つや子)

○何で日本は言いたいことを言えない国になってしまったのか、どうして声を上げないの！ものを言わないの！自由に言おうよ！（坂本龍一）



イラスト：大城旋律(孫)

☆歌は闘いの力——沖縄の闘いの中からはいつも歌が生まれます。民衆の血潮が湧き立ち、不屈の精神と共に命が躍動しているのです。1956年うるまの昆布での土地闘争(米軍の土地強制収用に対する島ぐるみ闘争)の中で生れた歌があります。

### 一坪たりとも渡すまい——昆布土地を守る会

- 1、東支那海前に見て わしらが生きた土地がある この土地こそわしらが命 祖先ゆずりの宝物
- 2、わしらはもはやだまされぬ 老いたかたき手のひらは 野良の仕事の傷のあと 一坪たりとも渡すまい
- 3、黒い殺人機が今日も ベトナムの友を撃ちにゆく 世界を結ぶこの空を 再びいくさでけがすまい

この歌を辺野古座り込み現場で歌う時、胸がいっぱいになり、当時闘った人々の魂と深くつながり、2023年の今も尚、変ることのない沖縄の現状にどうしようもない悲しみがこみ上げてきます。

ウチナー(沖縄)の民は非暴力の精神と直接行動によっていくつもの日米両政府の軍事計画をひとつひとつ断念させてきた実績があります。昆布闘争もその一つです。辺野古新基地建設反対闘争においても県民投票も実施し、県民上げて反対してきました。仲井間前知事による裏切り承認さえなければ事態は変わっていたことでしょう。そして戦後78年の現在まで、日米両政府によって軍事利用の島として固定化され、ミサイルも配備され、戦争の最前線として軍事基地化が進行しています。変わり果てた辺野古の海と陸とを見ても尚、私たちは決して諦めないと呼び続け、座り込みは**3217日**(4/28日現在)を迎えています。私たちは微力であっても決して無力ではありません。何故、こんなに長い長い闘いが出来るのでしょうか。それは人間らしい人間だからなのです。人は人と人とが愛し合ってこそ人間になり、共に生きる存在です。この人間であることを破壊するすべてのものを私たちは拒否します。決して主義や思想、信仰によらず、人間としての根元的な叫びなのです。私たちは歌います。

### 沖縄今こそ立ち上ろう 詞：山城博治

- ♪ 沖縄の未来は沖縄が拓く 戦さ世を拒み平和に生きるため 今こそ立ち上ろう 今こそ奮い立とう  
♪ 辺野古の海を守りぬくために 圧政迫るが立ち止まりはしない 今こそ立ち上ろう今こそ奮い立とう

また戦中戦後の沖縄を歌った歌を歌う時、何よりも平和を願う先祖達の魂の声が聞こえてくるのです。

☆沖縄よどこへ行く 作詞：安里正美

- ♪ 島をたがやすように 艦砲射撃の雨が降り 本当の敵は誰なのか 尊い命は帰らない ドンパチやっ  
て敗けた国 祖国と呼んだあの国は なぜだかこの島 放り出し アメリカよりも遠い国 流れ流さ  
れてどこまでも 沖縄よどこへ行く いくさが教えてくれたのは 愚かさだけなのに
- ♪ 生まれた時はアメリカ世 ためらいもなくドル時代 勝った負けたの関係で がんじがらめのお触書  
き いくさが終わりまたいくさ 島を飛び立つ米軍機 われわれの島が あの国々の 人々を苦しめ  
る 流れ流されて どこまでも 沖縄よどこへ行く 金網の向こうに平和など ありはしないのに
- ♪ アメリカ世からヤマトうぬ世 期待と不安の世替わりは いくさをしない日本の 兵隊たちがやって  
きた モノがあふれる暮らしより 金網のないこの島を それがアジアの人びとへ つぐないの証し  
流れ流されて どこまでも 沖縄よどこへ行く いくさが教えてくれたのは 愚かさだけなのに  
金網の向こうに平和など ありはしないのに

「基地のない平和な沖縄をつくるのがアジアの人々へのつぐないの証し」という言葉の真実が私の心にズッシリと落ちてきました。苦難の歴史と闘いの中から生れた沢山のウチナーの歌は、ウチナーの心、アイデンティティーであって、ウチナーへの愛そのものです。芭蕉布、月桃、ていんさぐぬ花、共に歌うと心はひとつに平和への祈りとなるのです。私が前号でも紹介した「海は泣いている 山も泣いている」の歌も歌い続けていけばいつの日か現場で生れたひとつの歌として、私たちの心を後世に伝えてくれることでしょう。

私は最近ひとつの歌を皆さんに紹介しました。夫が週2回行くデイサービスでの音楽療法でのテーマソングです。

☆ かりゆし沖縄 (ゆいまーるの島) 作詞：吉川 安一

- 1、人は一人では生きていけない 互いに癒し癒されて 生命(いのち)が育(う)まれ尊ばれ 青い地球(ほし)で光り輝く ユイマールユイマール命どう宝 うまんちゅ揃(する)てい かりゆし沖縄(うちなー) うまんちゅ：万人 かりゆし：めでたい
- 2、やさしさ思いやり 真心花(まぐるばな) 互いに咲かし咲かされて 感謝と絆で結ばれて 心安らぐ 我した島 チムグクルチムグクル命どう宝 だんじゅ美(ちゅ)ら島 かりゆし沖縄(うちなー) チムグクル：真心 だんじゅ：とつても
- 3、わたしは貴方と共に生きる いちゃりば兄弟(ちょうでー)手をとって 目指すところはチム美(じゅ)らさ うるま島から世界に羽ばたく ユイマールユイマール命どう宝 うまんちゅ揃(する)てい かりゆし沖縄(ウチナー)

ユイマール(互いに助け合うこと) いちゃりば兄弟(一度会ったら友達) 命どう宝 この三つの沖縄の心が歌い込まれています。そして人と人が出会い支え合い共に生きていく、平和を願う心が込められています。この歌を辺野古新基地つくらせない、私たちの闘いの中での歌としてみんなで歌っていきたいと願います。疲れていても共に歌えば元気になります。非暴力の私たちの闘いはいつも歌と共にあります。それはとても感謝なこと幸せなことだと思います。

☆大地の声を聞こう ——沖縄は地獄の地上戦から 78 年の時を刻みました。戦争体験者は次々と召され数少なくなりました。然しこの大地はあの戦争を記憶し、決して忘れることはありません。だから私たちは耳を澄まして大地の声を聞かなくてはなりません。戦争を知らない世代の若者達も聞こうと思えば聞こえるはず。聞こうとしなければ大地は空しく何も語りません。大地が飲み込んだあの血潮、砕け散った骨、そしてまた大地深く不発弾も沢山残っています。ウクライナの惨状を映像でリアルに見る私達は一層、沖縄戦の実体を想像力の中で知ることが出来るはず。そして私たちは何を選び何を決断するのでしょうか。答えを出さなくてはなりません。先月亡くなられた音楽家の坂本龍一さんが遺言のように残された言葉があります。『何故声を上げないの！ものを言わないの！もっと自由にものを言おうよ！』みんなが声を上げたら政治を変えることが出来るのです。傍観者で黙ってはいけないのです。今日学校の校門の前に立って、辺野古署名のアピール請願行動をしました。目がキラキラと輝いている小学生達もやってきました。「みんな！自分の思っていること言える人になってね！みんなが声を上げなくては世の中は良くならないのよ！」と呼びかけました。子供達は真剣な表情でうなずいてくれました。子供達の幸せと平和な世を願い、命の限り私も声を上げ続けようと新たな力を頂きました。

### ☆ 安和、塩川港での非暴力抗議行動

うるま島ぐるみの塩川港行動は月 1 回第 3 木曜のみです。安和には毎週火曜日 11:30~3 時迄の行動です。私たちの闘いは**非暴力**に徹しています。ダンプの運転手さんに合図して、ダンプが止ったら運転手さんに一礼して牛歩を始めます。終わったらまた運転手さんに一礼します。ある方は「土砂キライ、ドライバーさん好き」と書いた手作りの風船(40 cm ぐらい)を掲げて牛歩しています。ドライバーさんは決して敵ではなく、基地建設のコマとして使われる被害者とも言えます。塩川港ではドライバーさんは時間勤務の為無理な運転は少なく、非暴力牛歩の私達を見て、埋め立てを少しでも遅らせたいという私達の気持ちを次第に理解するようになりました。その結果最大 1,235 台を 800~900 台に抑えることが出来ています。それは土砂運搬船一隻分に当たります。安和では防衛省のあせりの現われでしょうか、右、左、直と三方向からの強引な進入で厳しい状況ですが牛歩戦術で頑張っています。塩川からの報告によるとある機動隊員が「上司が見ているから申し訳ないけど背中押しますよ」と言って軽く背中を押します。またある機動隊員は「うちの妻は妊娠 7 ヶ月なんですよ」と語りかけたりします。機動隊も本心は基地反対でこのような阻止行動をしたくないのです。考えればこの現場の一人一人は基地建設の**被害者**であって軍事基地建設によって幸せになる人は一人も居ないのです。ただ闇の膨大な資金が特定の誰かに流れているのです。こうした抗議行動の現場であっても人と人が出会い、人が人として生きている命の営みが存在していることに私は感動し心が震えました。それは非暴力だからこそ生れた事柄なのです。私たちは戦争を起こさせないために闘っています。その当人達が敵、味方に分かれ、怒り狂い、ののしり合い、憎み合い言葉と力の暴力をふるうならば、この抗議行動の現場が戦場と化してしまいます。それは大きな矛盾であって間違っています。平和をつくる闘いは非暴力の中からは生れないのだと私は確信します。ロシアとウクライナの戦争もまた非暴力の視点から考えるなら、もっと異なったあり方があったのではないのでしょうか。戦争を止める方法がきっとあったに違いありません。

☆自滅の道へまっしぐら ——週間金曜日で田中優子氏が語る『革命のできない国の末路』の内容に衝撃を受けました。「2000 年代からの日本の行き詰まり、新自由主義経済の導入ではどうにもならない——安倍政権出現の理由では。——今回の台湾有事への政権与党の「期待」は、米国主導に見えるが実は

歴史の繰り返して、米国のせいにしながらアジアに軍事エネルギーを向かわせ、日清、日露、満州事変の時に能動的に戦争を起し、日本国内に団結と変化が生まれるように仕向ける。そうなるかもしれない。日本が北朝鮮と中国に向かって能動的に参戦した時——第3次世界大戦となる——日本と日本人は消滅するかもしれない。これが革命の出来ない国の末路である。それを拒否するなら「他国への侵略という方法に頼らない国内の大革命を考えるしかない。』と。田中優子氏のこれらの見方が100%当たっているとは思わないところもあります。日本は大国相手に戦争する戦力などないと思うからです。然しこの軍拡には何か日本政府の闇の本心が隠されているように思います。日本人の多くは単純に軍拡に賛成していますが、私には死の商人という闇の姿が見えてきます。田中氏が言う国内の大変革はどうしたら起こせるのでしょうか。既に軍拡を急ピッチで進め、自滅への道をばく進しているこの国をどうしたら止められるのでしょうか。それは国民一人一人が命をかけて声を上げることしかありません。坂本龍一さんの嘆きの訴えを彼の音楽と共に聞き、私たち一人一人が自分事として危機感を持ち、憲法9条を死守し、死の商人の国にならないように、NO WAR 命どう宝の強い意志を持って声を上げることです。今の日本人には最も困難な求めですが、もはやそれしかありません。そしてアジアの国々との交友を深め、対話外交を重ねて、アジアの国々と共に平和をつくる国になることです。まずは自民党圧勝の長期政権を止めなくてはなりません。共に手をたずさえて声を上げて参りましょう。NO WAR 命どう宝、対話こそ希望。

◎やなかじ(悪い風)が吹いてきた 強風になってきた 戦闘機の爆音が恐ろしい程になってきた 戦争の足音が聞こえてくる ウチナーみんなの声でやなかじを吹き飛ばそう いいかじ(良い風)をみんなで強く強く吹かしていこう ミサイル要らない やなかじ(悪い風)飛んでいけ!!

### ◎ うるま島ぐるみの活動から

ミサイル要塞化の危機写真展を各地域公民館にてパート13まで開催しました。協賛は東アジア共同体研究所です。1回100人位の人達が観に来て下さり感想も書いてくれました。少しずつ地域住民の意識の中に浸透することを願っています。

☆五月になりました。ウチナーは花ざかり、山にはイジュの花、里には白ユリ、野生のグラジオラス、月桃が咲きほこり梅雨の時を告げています。野に咲く草花はそのまま美しく、平和を語っています。

◎地には花が咲き歌の季節がやってきた(旧約聖書 雅歌)

**辺野古新基地建設の断念を求める請願書の署名に御協力頂いた皆様に感謝申し上げます。**

**辺野古基金のために 引き続き御協力お願い致します。**

○つながるカうつぐみの会(大野悦子:福生市在住)

リサイクル着物からの作品:(\*大・小の手提げ袋\*マイバックなど)

○あみの会(山田博子:うるま市在住)

リサイクル系の作品:(\*各種帽子\*アームカバー\*ルームシューズなど)

リサイクル着物、糸と不要になったセーターなどの提供と作品販売に御協力下さい。

**提供下さる方は必ずご連絡下さい。** 両窓口:石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

携帯:090-4471-1942 Email:yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号:12260 番号:12650271 イシハラツヤコ

